

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
人間関係の心理学		BNNBS1L18	10304	1前	2(15)	選択
担当教員	小島 隆次					
概要	患者との関係や医療スタッフ間関係など、医療現場特有の人間関係に対して将来的によりよく適応できるようにするために、まずは幅広く日常的な人間関係における人の認知・行動特性に関する基礎的知見の習得が重要となります。本授業「人間関係の心理学」では、人間関係に関わる認知心理学や社会心理学の研究結果の紹介を中心に、人間関係における人の認知・行動特性の基本事項を幅広く学習します。また、こうした基礎的知見をどのように応用すれば、医療現場での対人理解や対人コミュニケーションにおいて適応的に対処できるようになるのかについても適宜検討します。					
学修目標	1)人間関係に関わる、人の認知・行動特性に関する基礎的知見を習得する。 2)1)で習得した知見に対して、論理的・批判的に考察できるようにする。 3)1)で習得した知見を、日常生活での人間関係において適切に援用する態度を身に付ける。					
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	
回	学修内容		予習・復習内容			
1	授業ガイダンス(授業の進め方、学習の仕方、単位認定・評価方法等の説明)		なし。			
2	感覚・知覚(感覚と知覚に関する基本事項の概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
3	注意(認知機能としての注意に関する基本事項の概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
4	記憶(記憶の種類と諸特性について概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
5	学習・動機づけ(条件づけなどの学習理論と動機づけに関する概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
6	推論(論理的推論の基礎と推論の誤りについて概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
7	ヒューリスティクス・認知バイアス(人の思考特性を、ヒューリスティクスと認知バイアスを中心に概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
8	対人認知(第一印象を中心に印象形成について概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
9	社会性と認知(他者存在による認知活動への影響などについて概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
10	集団心理(集団化した際の人の心理学的特性を概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
11	コミュニケーションの基礎(コミュニケーションの定義を中心にコミュニケーション基本事項を概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
12	言語コミュニケーション(言語情報を用いたコミュニケーションについて概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
13	非言語コミュニケーション(表情やジェスチャーなどの非言語情報を用いたコミュニケーションについて概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
14	交渉・説得(交渉・説得におけるコミュニケーション特性や方略について概説)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
15	まとめ(第2回～第14回までのまとめ)		予習は不要です。授業後に提供される復習用教材(補足資料)と過去問を利用し、この回の授業内容をまとめましょう。			
使用テキスト	授業に必要な教材・資料は全てこちらで用意します。授業時に使用するレジュメは各回授業に先行して配布します。各回授業後には復習のための教材(補足資料)を配布します。また、過去問も解答とともに数年分公開します。これら資料を各自で活用して定期試験に備えて下さい。					
参考図書	『現代の認知心理学』シリーズ全7巻(北大路書房)〔1. 知覚と感性〕〔2. 記憶と日常〕〔3. 思考と言語〕〔4. 注意と安全〕〔5. 発達と学習〕〔6. 社会と感情〕〔7. 認知の個人差〕 『認知心理学 (New Liberal Arts Selection)』(有斐閣)					
成績評価基準	基本的に定期試験の成績で100%評価します。但し、授業内及び課外での課題をこなした場合には所定の得点等を付与し、単位認定及び評価の際に考慮します(最大で20%分程度)。それらに関する詳細は担当教員から提供される授業ガイドを参照してください。					